

平成 27 年度 研究成果報告書  
Research Achievement Report FY2015

Date: 2016.3.24

言語社会専攻長

日本語・日本文化専攻長 殿

To Dean of Studies in Language and Society

To Dean of Studies in Japanese Language and Culture

講座名・職名 Course Title・Job Title	ヨーロッパ・アメリカⅡ講座
氏名 Name	川北（安生）恭子
専門分野 Academic Field	フランス語学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	フランス語連結詞
<p>フランス語連結詞研究の一環として、今年度は <i>en tout cas</i> を研究対象とした。<i>en tout cas</i> が出現する談話展開の観察を踏まえて考察・分析し、その本質的機能を検討した。分析方法としては、経験則及び意識化させた推意を介しての分析を試みたが、この分析方法によって、連結詞には推意を介すものと介さないものがあるという点が理解された。この推意の介入の有無という観点から考察すれば、従来、類義語であるとされる <i>de toute façon</i> との類義性が消失するのではないかと、この2つは共に日本語に訳す際「いずれにせよ」となる場合が多いにせよ、この「いずれ」の指示対象が明白に異なるのではないかと仮説立てた。考察・分析結果は大阪市立大学フランス文学会（2016.3.19、於：大阪市立大学）にて発表した。現在、論文執筆中である。</p>	